

水田センサを活用した水稻の適正な水管理による施肥法の食味影響調査

活動期間: 平成27年

- 食味向上を目的としたヒノヒカリの肥料展示ほにおいて水管理が適正に行われているかを把握するために水田センサによる水位のデータを調査した。
- 普及指導員、JA営農指導員、生産者で水田センサのデータを共有することで、適切な水管理がなされた。

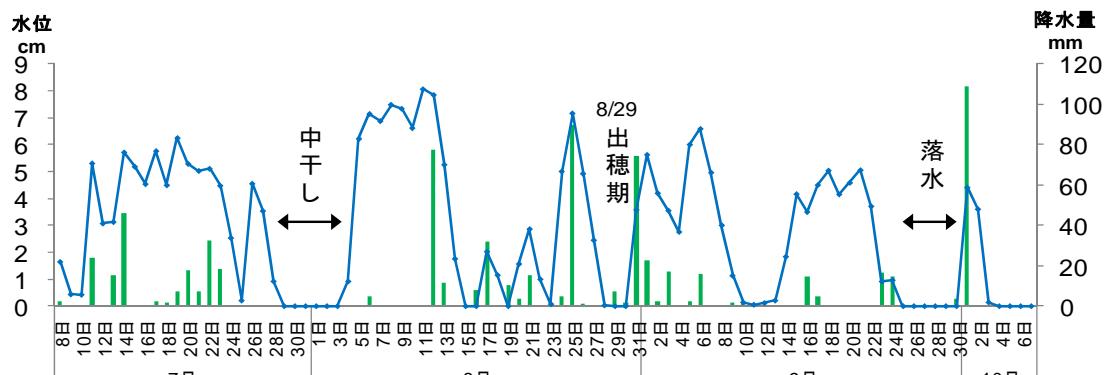
＜実証の取り組みイメージ＞



肥料展示ほへ水田センサを設置



試食会



水田センサの水位と降水量（アメダス朝倉）

収量・品質調査結果

区	基肥	穂肥	窒素施肥量 (kg/10a)	精玄米重 (kg/10a)	千粒重 (g)	外観品質 (等級)	食味値	玄米 タンパク質 (%)
試験区	有機エムコート256 60kg	グルタミン酸ナトリウム 5kg (葉面散布)	7.7	452	22.7	1等中	77	6.3
慣行区	同上	-	7.2	452	22.2	1等下	75	6.4

実証の成果

- 水田センサで水管理をモニタリング
- ・適切な水管理がなされたことで、信頼性の高い肥料展示ほの調査結果が得られた。
- ・水田センサの利点や課題を把握することができた。

普及指導員の活動

- 県内の普及指導員やJA営農指導員が参加する現地課題解決成果発表会で水田センサを活用した取組みを発表した。
- 新たなICTの普及現場での活用方法をパートナーである先進農業者や関係機関と連携し検討した。